

2023(令和5)年度  
江東区 児童館等フィールドスタディーズ  
活動報告



武蔵野大学

## 江東区 児童館等FSの活動報告書

【題 名】	【氏名】	【ページ】
1 中川船番所資料館での就労体験	岩崎 大地	1
2 中川船番所での実修	石川 有紗	2
3 豊洲児童館での実修を通しての気づき	根本 一翔	3
4 豊洲児童館での経験	佐藤 愛美	4
5 小名木川児童館での日々と子供たちから学んだこと	羽田 勇凱	5
6 小名木川児童館での実修で得たこと	黒部 真帆	6
7 平野児童館でのFSを終えて	椿原 利子	7
8 平野児童館の地域との関わり	西井 花凜	8
9 辰巳児童館での実修を終えて	藤川 皐葵	9
10 辰巳児童館で得た力	横田 理香	10
11 亀戸第三児童館での実修を通して学んだこと、感じたこと	清水 アマネ	11
12 亀戸第三児童館でのFS実修を終えて	金子 光咲	12
13 東雲児童館の実修を終えて	関口 恵理	13
14 東雲児童館と8日間	八巻 文香	14
15 大島児童館で自習をさせていただいて	中嶋 彩葉	15
16 大島児童館での実修を通して学んだこと	山田 楓	16
17 南砂児童館での三日間	山田 陽菜乃	17
18 もうひとつの居場所、南砂児童館	安達 瑠	18
19 東砂第二児童館での実修を通して	志村 歩夢	19
20 東砂第二児童館での実修にて学んだこと	渡邊 祥太郎	20
21 ティアラこうとうでの学び	山田 晃	21
22 ティアラこうとうでの実修で得られたこと	会田 ひかる	22
23 亀戸児童館にて学んだこと	小川 虎徹	23
24 亀戸児童館での学び	諏訪部 祐輝	24
25 児童と保護者の拠り所 亀戸児童館	江坂 貴子	25

### ＜江東区 児童館等フィールドスタディーズの活動報告書について＞

未だコロナやインフルエンザが心配される中でしたが、江東区の12の児童館、江東公会堂、中川船番所資料館においてフィールドスタディーズ（FS）の実修を無事に行うことができました。実修後の活動報告会では、学生たちから公共施設での活動を通して、様々な世代の区民が来館し、新しい発見や多様な意義があることに気付くことができた有意義な実修であったとの報告がありました。

本報告書は、初めて公共施設でのFSを通して学生が感じたこと、学んだこと等の意見をまとめたものです。活動報告会では、子供たちの無邪気さ、元気さに圧倒された。児童館は児童が来て遊ぶだけでなく、子育て支援や世代を超えた交流の場であることが分かった。地域の情報交換や外国人への対応、乳幼児プログラムなど多様な世代の多様なニーズに応える工夫がされていることが分かった。区民のニーズに応じた工夫や企画など、イベント等の前の準備が大変なことが分かった。社会人の視点をもって考え、子どもたちの教育の問題や地域連携の大切さ等にも気付くことができた。最初からもっと積極的に話しかけて行動すれば良かった。しっかりとした挨拶や礼儀の大切さが分かった等、充実した良い経験ができたことを語ってくれました。このような充実した学びができたのも、江東区の児童館及び江東公会堂、中川船番所資料館の職員の皆様のおかげです。改めてお礼を申し上げます。

フィールドスタディーズでは多様な学部、学科の1年生の学生たちが社会体験を通して、自らの学びや進路、生き方を考え、社会の中での自分の位置を考え、今後の学びの一助とすることを求めています。

また、各報告書では、次に続く後輩たちへのアドバイスも書き加えてもらいました。自分たちの反省も踏まえ、どのようにしたらより良かったのかを改めて考え、後輩へのアドバイスという形で表現したものです。本年度の活動の経験が次への世代の学生のより充実した活動へと繋げるとともに、学生自身にとっても今回の活動を生かして、学生たちには、自らの考えをしっかりとって、さらなる活躍の場を広げていって欲しいと思います。（担当：叶 雅之、高波瀬 彩）

## 施設実修終えての感想

私は今回、社会人としての力を身につけるという目的をもって、この中川船番所資料館インターンシップに参加した。5日間という短い期間の中で、その目的を十分に達成することができたとは言えない。私は未だ社会に出て活躍するだけの力をもっておらず、このまま3年後に迫る就職活動に望んだとして、良い結果を得ることは困難であると考え。確かに今回のフィールドスタディーズで、社会における即戦力を身につけることはできないが、短い期間ではあったが、社会を経験することができたとは自信をもっていえる。そして、私はその経験の中で、今後の人生に役立つ新たな発見を得たのだ。



今回のインターンシップでは様々な業務を任された。プリントを折る作業や冊子にプリントを差し込む作業、パソコンに文字を転記する作業などが主な業務だった。世界には多くの仕事があり、中にはこのような単純作業も多くある。インターンシップを通して、社会経験を得ることができたといえるのだ。

上記のような作業だけでなく、イベントを企画するといった機会もあった。中川船所資料館では、定期的にイベントを開催して、客層を広げている。私が最終的に施設に提案したイベントとは、江戸和竿制作ワークショップだ。中川船番所資料館の名前の通り、船の番所、つまり船の関所についての展示を行っている。関所の歴史や川について詳細な説明があるのだが、これらは子供には少し難しい印象がある。つまり、中川船番所資料館では常設展示だけで子供を集めることは難しいのだ。その欠点を補うべく、夏休みに子供を対象としたイベントが開かれると考えた。前述のとおり中川船番所資料館は川についての展示も行っている。中には川周辺の文化として、当時の釣り文化も紹介している。そのため、イベントのテーマが施設の方向性に合うように、「江戸和竿」に焦点を当てた企画を考案した。また、内容を制作型のワークショップにしたのは、子供ウケを狙ったことだ。当初、江戸の釣り文化を授業形式で紹介するイベントを考案したが、これでは子供を喜ばすことはできない。せっかくの休日に授業を受ける子供の気持ちを考えると、授業形式のイベントでは、子供の興味関心を集めるのは難しく、子供が退屈しないよう学んだ内容を活かして実際に竿を作る機会があれば良いと考え施設に貢献できる企画として、江戸和竿ワークショップを提案したのだ。



私はこの経験から想像力の大切さを知った。どのようなイベントであれば子供を喜ばせることができるか、また資料館の客層を広げることができるかなど、想像力が重要な意味を持つ場面が多くあった。そして、このような場面は今回のインターンシップだけでなく、今後の人生において数多く存在するだろう。いつか私の想像力が必要とされる時、本インターンシップでの経験を活かして、より良いアイデアを生み出すことができるよう活躍していきたい。

## 後輩へのアドバイス

このプログラムでは毎回の活動で実修日誌を書かなければならない。そして、提出締め切りは毎回の実修終了時だ。活動中に日誌を書き上げる必要があるわけだが、そこまで心配はいらない。このインターンシップでは自由になる時間が多いのだ。そのため、余裕をもって日誌を書くことができる。日誌は 最終レポートの材料にもなるため、慌てず丁寧に書くのが良いだろう。アドバイス

このプログラムでは毎回の活動で実修日誌を書かなければならない。そして、提出締め切りは毎回の実修終了時だ。活動中に日誌を書き上げる必要があるわけだが、そこまで心配はいらない。このインターンシップでは自由になる時間が多いのだ。そのため、余裕をもって日誌を書くことができる。日誌は 最終レポートの材料にもなるため、慌てず丁寧に書くのが良いだろう。

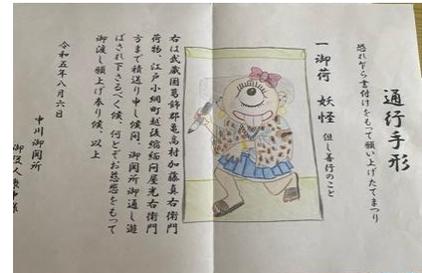
## 中川船番所での実修

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科 2315006 石川有紗

### 施設実修を終えての感想・反省

フィールドスタディーズで私は中川船番所に実修で行きました。

一日目は水辺の妖怪かくれんぼという期間限定で行われていたイベントのお手伝いを行いました。イベントでは、妖怪通行手形作成の講座も行われていました。参加している人は妖怪に詳しい人ばかりで講師の方ともたくさんコミュニケーションをとっていたことがとても印象に残りました。私も実際にそのイベントへ参加し、妖怪通行手形を作成しました。オリジナルのデザインの妖怪や色付けを好きなようにすることができたことがとてもよかったです。



二日目はイベントのアンケート集計を行いました。日にちごとに分かっているアンケートの数を数えました。感想の部分にはほとんどの人が満足の意見を書いており、要望の部分には「またやってほしい」などの意見が多かったように感じました。

三日目はアンケートのコメント集計、花火大会の注意書き作り、本の整理を行いました。花火大会の注意書き作りは目立たせなければいけないところを見てもらえるように工夫して作ることがとても難しかったです。本の整理では施設に届いた本や博物館の報告書や古書のカタログなど様々な種類の本がありました。番号や、シールの色を分けて記録したり貼ったりすることに時間がかかり、とても大変でした。

四日目はイベント企画の提案を行いました。企画する際にはどの年齢層をターゲットにするのか、どのようなことを考え学ぶことができるのか、注意点はどこなのか考えることにとても時間がかかりましたが、実際に自分で考えた企画の企画書が完成した時はとても嬉しく、疲れが無くなったように感じました。

最終日は花火大会の日に行ったイベント設営のお手伝いをしました。ワークショップの準備、施設内で行うキャラクター探しの準備、記録写真の撮影などを行いました。昔遊びのワークショップでは、実際におもちゃで遊ぶことができるようになっていて、楽しめるようになっていたと思いました。誰でも簡単にできるような遊びやうちわづくりをやっており、参加している人は皆楽しんでいるように感じました。



今回のフィールドスタディーズで目標としていた施設に来た人とのコミュニケーションをとることはできませんでした。施設の方々はとてもやさしく、毎日の実修がとても良い経験になりました。また、最終日には様々な収蔵庫にしまっているものを見ることができたこともすごくいい経験になったと思います。大型プリンターやテプラの存在は聞いたことがありましたが、使用したことはなかったので、就職した際にとても役に立つことを学ぶことができたと感じました。今回学ぶことのできた昔の文化は来年留学へ行くので、日本にある昔の文化として現地の人に伝えられるようにしたいです。

### 後輩へのアドバイス

どの施設でも普段は体験することができないようなことを体験できるので楽しいと思います。私の施設では歴史的なものを見ることができたり、文化に触れたりすることができました。昔の文化や地域的な歴史について興味を持っている方にはおすすめです。また、博物館などの場所では普段どのような仕事や作業をしているのかを知ることができるので、すごく楽しいと思います。他のフィールドスタディーズでは、実際の仕事を体験できるものがあまりないので、社会人はどのようなことをしているのか体験できることもこのフィールドスタディーズの魅力であると思います。私は実際にこのフィールドスタディーズに参加し、大学とは全く違う環境へ行くことで人間として1歩成長できた期間になったのではないかと感じています。社会人はどのようなことをしているのか体験できることもこのフィールドスタディーズの魅力であると思います。私は実際にこのフィールドスタディーズにⅢ足、大学とは全く違う環境へ行くことで人間として1歩成長できた期間になったのではないかと感じています。

## 豊洲児童館での経験

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科 2315072 根本一翔

### 施設実修を終えての感想・反省

4日間という短い期間でしたが、とても貴重な体験をすることができました。初日は、子どもたちがたくさんいて一緒に遊ぶ時間が多かったのですが、正直彼らの元気に圧倒されました。圧倒されつつも子どもたちに楽しんでもらいたかったため、自分なりに接し方を考えて実践したのですがそれが彼らにとって良かったのか不安でした。しかし、楽しそうに遊んでくれたのでこちらとしてはとても嬉しい気持ちになりました。子どもの方から一緒に作ろうと誘われたときは、嬉しかったですし物を完成させることができた時の子どものとても嬉しそうな顔を見たときは、心が癒されました。

業務の面では、乳児室に吊るすためのものを折り紙で作る作業やいろいろ準備をしてみて子どもたちが楽しく遊んでいる裏側はこんなに大変なのだと思身をもって体験することができてよかったと思います。また、職員の方から業務についてお話を聞いた時には、子育てに関しての会議に参加するなど自分が知らない部分をたくさん知ることができ、職業を深く調べることに對して興味が湧きました。

今回は、児童館に実修しに行きましたが、この仕事を将来したいからという理由で参加したわけではありませんでした。実際に4日間実修をしてみて、これから先なんでも挑戦できそうな勇気をもらうことができました。職員の方とお話しする機会も何度かあり、自分の将来について話をしたときに肯定的に聞いてくださり、自身の経験をお話しして下さって、私にとってとてもためになることがたくさんありました。

とりあえず新しい環境に飛び込むことによってなにか気づきを得られるということ、身をもって体験することができてよかったなと思いました。



### 後輩へのアドバイス

子どもたちとレゴや囲碁ボールで遊んだのですが、小さい子どもたちと協力して何かをするということは、自分自身も楽しいですし彼らがとても楽しそうに遊んでいるところを見ると心が癒されます。時には、やはりまだ小さいということもあってケンカのような場面に遭遇することもあります。そのような場合には分かりやすくかつ言い方がきつくならないように言葉を選ぶことが求められるので、それも自己の人間性を成長させるための良い機会だと思います。

今回は、たまたま子どもが少ない時だったため、事務仕事が多かったのですが、事務をしながら職員の方ともお話しをする機会があったので、そこで自分の将来の夢などを話すことによってなにか気づきを得られる可能性もあります。迷惑にならない程度に疑問に思ったことは、どんどん施設の方に聞くべきだと思います。自分たちよりも社会を経験している方たちなので学ぶことはたくさんあると思います。

## 豊洲児童館での実修を通しての気づき

法学部政治学科 2326029 佐藤愛美

### 施設実修を終えての感想・反省

今回のフィールド・スタディーズでの実修を通して、子どもや、子育て世帯に対しての児童館での取り組みの重要性を理解することができました。

豊洲児童館では、乳幼児親子に交流の場を提供し、乳幼児親子を援助するために、年齢別ひろばの実施や、年齢発達に合わせた子育て講座、ママパパリフレッシュタイム・ベビースロンなど乳幼児保護者向けのプログラムを開催し、初めて来館した親子や、初めてイベントに参加した子育て家庭でも子育ての相談をすることができるようになっていました。8月に開催される乳幼児向け行事には、ちびっこ水遊びやベビーマッサージがあり、月ごとに様々な行事を職員の方々が考え、開催されていました。

私は、今回の実修で子どもたちや保護者に交流の場を提供し、支援することに、午後で開催される囲碁ボールというゲームの準備やプラレールの準備という形で携わらせていただきました。ほかにも、環境整備の一環として部屋の装飾の作成、おもちゃの点検、各部屋の清掃を行ったことで、子どもたちが安全に遊ぶための環境整備の重要性を知り、利用しているだけでは知り得なかった「リスクマネジメント実践集」での危機管理や、安全管理推進委員会での会議への参加など、児童館の職員の方々は子どもと関わるだけでなく、子どもたちに安全に楽しく遊んでもらうために、見えないところでの多くの努力をされていることが分かりました。

館長さんから、豊洲周辺はとても子育て世帯が多い地域になっていて、小学校のクラスが1学年に7クラスもあることをお聞きしたのですが、児童館での乳幼児保護者向けのプログラムや、小学生から高校生世代に向けたプログラムの充実はもちろん、職員の方々が利用者の方にひとりひとり真摯に向き合っているからこそ子育て世帯の方々が多く集まるのだと感じました。



**乳幼児向け 年齢別ひろばの事前予約**

★原則1回1回約の午前9時から電話または窓口にて予約を付けてください(急いで空きがある場合は当日も参加可)

**ひよこクラス① 集會室**  
【日時】 本曜日、午前10時15分～(30分間)  
【対象】 おおむね30歳から月～24歳

**うさぎクラス 集會室**  
【日時】 本曜日、午前10時30分～(30分間)  
【対象】 2021年4月2日～2022年4月1日生まれまで 24歳

**ひよこクラス② 遊戯室**  
【日時】 本曜日、午前11時～(30分間)  
【対象】 おおむね0歳から月まで 14歳

**コアラクラス 集會室**  
【日時】 金曜日、午前10時30分～(30分間)  
【対象】 2023年4月1日までに2歳になっているお子さん 24歳

**トコネークラス 集會室**  
【日時】 本曜日、午後3時20分～4時(40分間)  
【対象】 2023年4月1日までに3歳になっているお子さんから未就学児 24歳

**ちびっこ水遊び 事前予約**

**22日(火)～25日(金) ※雨天中止**  
【時間】 ◎午前10時～10時30分、◎午後11時～11時30分  
【対象】 おすわりができる6か月～未就学児 各15分間  
【持ち物】タオル、着替え、帽子、飲み水、水に濡れて大丈夫な靴やサンダル、汗拭きタオル(任意で持参可です。)

**9月2日(土) ベビーマッサージ**  
【時間】 午前10時30分～11時30分  
【場所】 遊戯室  
【対象】 高学年から年長3か月～おすわりまでの赤ちゃん 12歳  
【申込】 8月26日(土)午前9時から電話または窓口にて  
【申込】 8月26日(土)午前9時から電話または窓口にて  
【備考】 本日はお風呂、水遊びを楽しみます

豊洲児童館HPはコチラ

8	9	10	11	12
ちびっこ工作 囲碁ボール	ちびっこ工作 中高生タイム	ちびっこ工作 囲碁ボール	山の日 おやすみ	土曜日読み聞かせ プラレール
15	16	17	18	19

### 後輩へのアドバイス

児童館での実修は、乳幼児から高校生など幅広い世代の子供たちと関わるのが魅力の一つなのですが、いざ子どもとコミュニケーションをとってみると、どうしても1人に集中してしまい、多くの子どもと関わるができなくなってしまいます。なので、多くの子どもと積極的に関わることを意識し、周囲をよく見ることを心掛けて実修に臨むとより充実し、価値のある実修にすることができると思います。

# 小名木川児童館での日々と子どもたちから学んだこと

教育学部教育学科 2337067 羽田勇凱

## 施設実修を終えての感想・反省

### ◎はじめに

今回は、実修を終えて改めて、子どもたちや先生方と過ごした時間はとても有意義な時間だったと感じました。子どもたちと接するときには留意すべき点をはじめとして、ここには書ききれないほど本当にたくさんのことを学ばせてもらいました。とても楽しかったですし、絶対に他ではできない経験だったと思います。この実修で学んだことは必ず私の糧になると感じたので、将来に活かすために大切に覚えておこうと思いました。



### ◎実修内容について

今回はかなり短い期間でしたが、先生方の協力もあって様々な体験をさせていただきました。小名木川児童館は一時保育の施設も兼ねているということで乳幼児さん向けの部屋や設備もあり、管理が大変そうだなと思いましたが、そんな中でもおもちゃの管理や消毒などの細かい事柄もきちんと徹底されていて流石だなと思いました。今回は、主に乳幼児さんとの接し方に関して拙さが出てしまっていたように感じたので、そこはもう少しうまくやれていければなと思いました。



### ◎イベントについて

そして、今回の実修期間で最も印象深かったイベントが夏祭りです。ありがたいことに私たちも準備と運営に関わらせていただいたのですが、飾りつけやイベントの中身など、随所から「利用者さんに楽しんでもらいたい！」という想いが感じられました。また、私はその中でも主に謎解き(脱出)ゲームに関わらせていただきました。夏祭り開催のギリギリまで改良を重ねており、児童館のイベントとは思えないほど完成度の高いものに仕上がっていました。実際子どもたちもかなり気に入ってくれたようで、何度も足を運んでくれました。



## 後輩へのアドバイス

私が児童館での実修を終えて感じたことは、とにかく子どもたちと全力で向き合うことが大切だということです。今回の実修は数日間でしたが、それでも本当に色々な子と会い、話をし、一緒に遊びました。そしてその中で少し驚いたのが、彼ら彼女らは想像以上にしっかりと自分の考えを持って行動していたということです。そのせいか、ときにはケンカが起こってしまうこともありますが、それは彼らが一生懸命考えて日々を生活している証だと思います。

また、彼らがのびのびと過ごせるのは、まぎれもなく職員の方々の努力のおかげです。まだ大学生である私たちを快く受け入れてくださったことには本当に感謝をしていますし、イベントの開催頻度の高さや内容の充実度合いには驚きが隠せませんでした。そして何より、子どもたちに本当に好かれているということがひしひしと伝わってきました。先生方からはたくさんのことを学ばせていただきました。

最後になりますが、私が最も意識すべきだと思ったのは、「仕事に、そして子どもたちとにかく全力で向き合う」ということです。大変な部分も多少あるかもしれませんが、とてもやりがいのある仕事です。ぜひ全力で仕事をして全力で楽しんでください。

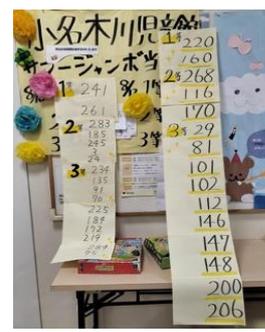
## 小名木川児童館での実修で得たこと 教育学部幼児教育学科 2338021 黒部真帆

### 施設実修を終えての感想・反省

小名木川児童館で小名木川児童館で 10 日間実修をさせて頂いて学んだことは、自分から積極的に動くことの大切さです。小名木川児童館では、日本人の子だけではなく違う言語を使用する子どもがたくさんいました。最初は、自分の英語力に自信がなくてどのようにコミュニケーションをとったらいいのか分からずあまり関わることができませんでした。しかし、完璧な英語を話せなくても表情や身振り手振りを使ってコミュニケーションを取ることで相手にも気持ちが伝わり、たくさん話しかけてくれたり遊んだりして関わることができました。このように言語の違いがあっても自分から積極的に関わろうとすることでコミュニケーションを取ることができることを学びました。

### 小名木川児童館でのお祭り

実修の期間中に小名木川児童館でお祭りがありました。そのため、お祭りの準備や制作物などのお手伝いもさせて頂きました。一つひとつの制作にたくさんの時間をかけていて、子どもが楽しめるようにたくさんの努力をしているのだと感じました。実際にあった出し物は、謎解き脱出ゲーム・スーパーボールすくい・わなげ・さかなつり・ボールプール・フォトスポット・サマージャンボでした。実際に出し物に必要な小道具だけではなくちょうちんなどのお祭りの雰囲気を出すためのものも作成しました。細いところまで手を抜かないことで幅広い年齢の子ども達がみんな楽しむことが出来るのだと感じました。お祭りの日が近くなっても職員さんで何度も話し合ったり会議をしたりしてより良いものをつくりあげていく様子が印象的でした。



お祭りは 2 日間ありました。1 日目はスーパーボールすくいのお手伝い、2 日目は乳幼児さんのボールプールやフォトスポットのお手伝いをさせて頂きました。幅広い年代の子どもがいるためスーパーボールすくいのルールを説明する時にその子の年齢に合わせて言い方を変えてみたり、サポートをしたりと試行錯誤をしながら過ごしました。また、みんな平等にするためにしっかりとルールを伝えることを意識しました。2 日間とも子ども達はとても楽しそうにしている、実際にとても楽しかったと言っている子どもがたくさんいました。お祭りを楽しむ中で順番を守ったり他の子に譲ってあげたり自分より年下の子がいたら配慮をしたり、分からない子に教えてあげたりする姿も見られました。また、保護者の方もそのような姿をみて自分の子どもの成長を感じることができていました。子どもが楽しく成長するだけでなく、保護者の方にとっても家で過ごすだけでは見られない子どもの成長を見る機会として有効的だと感じました。

### 後輩へのアドバイス

小名木川児童館では英語を話す子どもとコミュニケーションをとる場面がたくさんありますが、完璧な英語を話そうとするのではなく簡単な単語やジェスチャー、表情などを交えることで相手にも自分の気持ちを伝えることができコミュニケーションをとることができます。英語が苦手でも相手の目を見てしっかりと話を聞いてみると言いたいことが伝わってくるので積極的に関わろうとすることが大切だと思います。また、制作を手伝わせて頂く時があります。文字を書く時などは太く大きな字で書くことで遠くからでも見やすく子どもも読みやすくなるので意識することが大切だと感じました。0 歳から高校生まで来館するので幅広い年代の子どもと話したり一緒に遊んだり、保護者の方ともお話をし各家庭とじっくり関わるという経験は必ず成長に繋がると思うので自分から行動することを意識して頑張ってください。

## 施設実修を終えての感想・反省

私は、8月7日から8月16日のうちの8日間平野児童館でフィールド・スタディーズの活動をさせていただいて多くのことを学ぶことができました。

平野児童館の施設は、部屋が5つに分かれており、どの年齢でも利用できる図工室と図書室、乳幼児のみが利用する遊戯室、時間帯によって利用できる年齢が異なったり児童館で行われるイベントごとに使われたりすることの多い集会室、きっずクラブの子どもたちのみが入ることのできる育成室がありました。

きっずクラブとは、一般の方が利用する児童館とは異なり事前予約で小学校1年生から3年生（発達障害といった特に支援を必要とする小学生は全学年）を預ける場所のことを指します。今回は、一般利用の児童館の運営ときっずクラブの運営をそれぞれ1日交替で実修させていただきました。

児童館の方で活動を行って気づいたことが2つあります。1つ目は、午前と午後で児童館を利用する年齢層が異なっていたことです。午前は、親御さんが働いているために1人で留守番ができないような小学校低学年以下の子どもを預けるような形で利用されることが多かったです。また午後は、自立して児童館で遊ぶことを目的とする小学校高学年以上の子どもが多かったです。2つ目は、児童館の存在が親御さんの支えになっていることです。私にとって児童館と聞いたときの最初の印象は小中学生が室内で遊ぶことのできる場所でした。しかし、実際は乳幼児から親御さんまで幅広い世代の方々が利用する場所であった。特に、親御さん向けの取り組みとして、乳幼児を目の届く室内で遊ばせている間に親御さん同士で交流する機会を作ることを目的とした「子育てサロン」といったイベントごとを行ったり、子育て相談を受け付けていたりしていました。さらには、児童館で子どもが遊んでいる間に直接職員の方に相談している姿も見かけました。これらを見て、児童館は名称通り児童はもちろんそれを取りまく大人たちにも役立っていることを初めて知りました。

きっずクラブで活動させていただいた時、きっずクラブを利用している子どもたちと児童館を利用する子どもたちとで様子が異なっていたことに気づきました。児童館は任意で行く場所であるため、行きたい人が行く、と気持ちが明確であるのに対して、きっずは親の都合で行く子が多いため、気持ちが複雑な子がおり、落ち着きのない子が目立っていた印象でした。また、その落ち着きのない子が危険なことをしたときに職員の方はただ「だめ！」というのではなく「どうしてそういうことをしたのか口で説明してごらん？」と冷静に対応していました。そして子どもに寄り添った声掛けを意識していて、特に幼い子供の接し方の参考になる場面が多くありました。

最後に、実修を行っている中で職員の皆さまが優しく声をかけてくださったり、子どもたちが興味をもって話しかけてくれたりプレゼントを渡したりしてくれました。このような心温まる平野児童館で活動ができて非常に嬉しく思います。たった8日間と短い間でしたが本当にお世話になりました。ありがとうございました。



## 後輩へのアドバイス

子どもと話をするときにはできるだけ明確に言葉を伝えることを意識することを大事にするとういと思います。たとえば、「ちょっとまって」と子どもに対して言うと「ちょっと」の意味があまりはつきりせず困惑する場面が多々あります。なので、そこを「長い針が○になるまで」とできるだけはつきりさせることで意味を簡単に理解し、落ち着いてくれます。

## 施設実修を終えての感想・反省

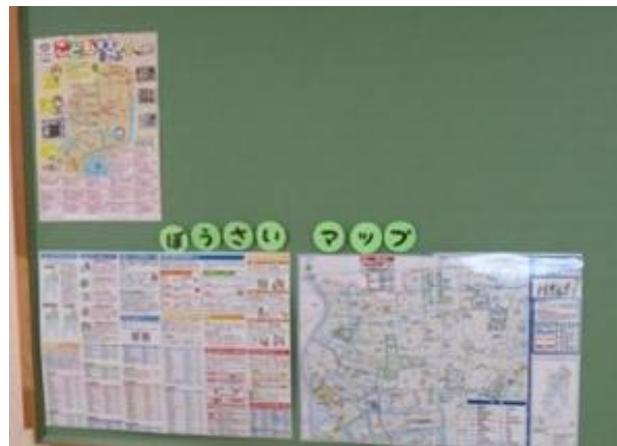
私は平野児童館での8日間の実修で、さまざまな子どもと接したことで将来なりたい保育士という仕事について改めて考える良いきっかけとなりました。

実修開始から数日間は、子どもの顔と名前を覚えることに精一杯でした。日にちが経つにつれて、子ども一人一人の違いや年齢によってどのくらいの発達段階であるかを理解することができました。実修の最後の方では、保護者の方とお話することなどで関わらせていただくことができ、児童館という存在は子どもにも親にも必要な場所であるということが分かりました。



児童館では、子育てサロンやベビーヨガ、ベビーマッサージなど乳幼児の親子対象のプログラムが開催される日が1ヶ月に数日あり、そのプログラムでは子どもとの時間を確保しながら親同士で子どものことについて話したり、職員の方に育児についての相談をしたりとコミュニケーションを取ることで、子育ての不安やストレスも解消することができます。平野児童館ではきつずクラブという学童クラブがあり、学校の無い日などに子どもが児童館に来館し、自由時間や学習時間など時間が決められていて、遊びと勉強の切り替えをしっかりとすることにより有意義な時間を過ごすことができます。館内廊下には防災マップ、児童館近くのこども食堂、おすすめの公園などの掲示物があり、これらから、児童館と地域との関わりも密接であることがわかりました。

子どもたちとの関わりを通して、同じ年齢でも自分の気持ちを上手に伝えられる子どもや我慢しすぎてしまう子どもなどさまざまな子どもがいて、子どもたちの特徴や個性をしっかりと把握しどのように接するかをよく考えて、今回の実修の経験をこれからある幼稚園や保育園での実修に活かしていきたいと思いました。そして、子どもの笑顔は何よりも嬉しく、自分まで笑顔で幸せになることができたので今回の実修での思い出を忘れずに、子どもや保護者の方に信頼されるような保育士になるためにこれからも努力していきたいと思えます。



## 後輩へのアドバイス

子どもと関わる際に最も気をつけるべきだと思ったことは、「子どもの目線で考える」ことです。平野児童館ではお昼ご飯のあとに食休みの時間としてDVDを鑑賞しているのですが、私たちが感動を感じる内容でも子どもにとっては、雰囲気などが怖く感じて泣いてしまう子どもがいました。子どもは感受性が高く繊細であるため、大人の目線ではなく子どもの目線で物事を考えて子どもたちに接し、使う言葉や態度などをよく考える必要があると思います。児童館は幅広い年齢の子どもが利用するため、今までには無かった新たな体験や学びを経験することができ、子どもだけではなく保護者の方とも関わる機会があるためさまざまな年齢の方とのコミュニケーションを通し新しい視点で物事を見ることができるようになりました。子どもの笑顔や保護者の方の笑顔を見ることができることが非常にやりがいとなり魅力的な活動です。

## 施設実修を終えての感想・反省

私は現在学習塾でアルバイトをしているため小中学生の子供と関わる機会があるが、子供とゆっくり遊んだりおしゃべりしたりする機会はなかなか無いため、子供とドッジボールやバドミントンをして身体を動かして遊んだこと、トランプなどのカードゲームや行事の準備をしながらおしゃべりしたことは新鮮で、子供の無邪気な姿を見ることができて楽しかった。また、職員の方に、普段は同じクラスの友達と児童館に遊びに来ている子も、学校が長い休みになると、年上や年下の子と混ざって遊んでいることを教えていただいた。子供が夏休み期間中の実修であったため、実際に異年齢交流が行われていることを確認することもできた。

私が生まれ育った地域には児童館が無く、児童館がどのような場所であるのか想像がつかず、実修前は不安な気持ちしか無かった。「自分から子供に声をかける」「自分から仕事をもらいに行く」といった、積極的に行動することをFSにおける目標としたが、実修の前半と「きっずクラブ」での実修の際はこの目標を達成することができず、自分の積極性の無さを痛感した。しかし、日数を重ねるにつれ、自発的に行動できるようになり、目標を達成することができたと思う。

実修期間中は主に「おばけえんにち」という行事の準備をしたが、乳幼児・保護者向けのプログラムに参加した際に、プログラム中の絵本の読み聞かせの時間も任せていただいた。高校の専門家庭の授業で子供に関することを学んでいたこともあり、授業で絵本の読み聞かせも行ったことがあり、授業での成果が発揮できて嬉しかった。一方で、乳児との接し方がわからず、乳児を泣かせてしまい、気が重くなってしまったが、職員の方が「赤ちゃんが泣くのは当たり前」と教えてくださり、気持ちが軽くなった。また、保護者の方が取り残されていたり、困ったりしていないかを確認することの大切さも学んだ。実際に保護者の方とコミュニケーションを取ったことで、保護者の方の子育てについての考えを知ることができた。

私は将来スクールカウンセラーなどの心理職に就き、1人1人に寄り添い、心の傷を癒すことができる支援をしたいと考えている。そのため、子供との接し方や話題の広げ方、周囲を意識することの大切さといった、この実修で学んだことはアルバイトや将来の仕事、自分が親になって育児をする際に活かすことができると思う。

長いようであつという間の10日間でした。お世話になりました。辰巳児童館で実修をさせていただき、本当にありがとうございました。



↑ おばけえんにちに向けて風船で作ったちょうちん



↑ 目打ちで穴を開けて窓に貼付したイラスト

## 後輩へのアドバイス

アルバイト等で子供と関わる機会がある人、将来子供と関わる仕事を考えている人、子供が好きな人、子供との接し方を学びたい人にこの児童館のプログラムをおすすめしたいです。乳幼児から中高生、その保護者の方と関わることで、新たな発見ができ、刺激がもらえ、利用者さんの笑顔を見ることで自分も笑顔になることができ、非常に良い経験になります。

疑問や不安は職員の方に質問・相談しましょう。親身になって話を聞いてくださいます。

初めての場所での経験は不安な面も多々あると思いますが、失敗を恐れずに様々なことに挑戦してみてください。挨拶や笑顔、身だしなみを整えること、時間を守ること、子供と話す時は視線を子供に合わせることを忘れずに！

施設実修を終えての感想・反省

私は児童館を利用する機会が少なかったため、児童館の仕組みなどをあまり理解できておらず、実修への不安がありました。しかし、職員の方々が都度質問に答えてくださるなど丁寧に対応してくださるおかげで、緊張感はもちつつも、楽しみながら実修に臨むことができ、生きた知識を得ることができました。

辰巳児童館での実修期間の大半は、「おばけえんにち」で使用する顔出しパネルの制作をしました。職員の方から頼まれたことは顔出しパネルの制作だけでしたが、制作が終盤に近づいたころ、フォトプロップスがあったほうが、より来館したお客さんに楽しんでもらえるのではないかと考え、そのことを提案し、制作をしました。おばけえんにち当日までは、必要なかかもしれないと考えることもありましたが、受付の手伝いをしている際に、顔出しパネルで写真を撮っている人だけでなく、フォトプロップスを使用して写真を撮っている方の姿も多く見ることができて、とても嬉しい気持ちになり、提案してよかったと思うことができました。そして、数種類制作したフォトプロップスを子どもが選択する様子を見ることによって、大まかな年齢ごとの好みを知ることができたことも、よい経験となりました。また、1日のみではありますが、きっずクラブにも参加させていただきました。きっずクラブでは児童館よりも遊ぶメンバーや場所が固定されている分、より学校に近い雰囲気の中での子どもたちの様子を学ぶことができました。



今回の児童館実修での反省点は、自分から子どもに対して積極的に行動を起こすことがほとんどできなかったことです。職員の方の指示を聞いて行動することはできましたが、家族やグループで遊んでいる子どもに話しかけるタイミングを掴むことができず、遊んでいる様子を見守ることしかできませんでした。このことは、今後の自分の課題として改善していきたいです。

辰巳児童館での実修は、得難い経験となりました。上述した以外にも学んだことは数多くありますが、そのどれもが、今後の学科での施設実修や、社会人として働く際に活かしていくことができると考えます。私がこのような学びの機会を得ることができたのは、施設の皆様や先生方のおかげです。本当にありがとうございました。



↳ 顔出しパネルの一部



↳ おばけえんにちの窓装飾

〈後輩へのアドバイス〉

主な活動内容

- ・児童館…来館者の対応、イベントの準備や参加、感染症対策のためのアルコール消毒
- ・きっずクラブ…利用者との遊び、宿題・勉強を見る

留意したこと

- ・挨拶を欠かさないこと
- ・子どもとの遊びであっても、必ずしも手加減するべきというわけではないこと
- ・1つのことに集中しすぎないこと

活動の魅力

- ・幅広い年齢の方々と関わることができる
- ・様々な人と関わるなかで、新たな視点を得ることができる

# 亀戸第三児童館での実修を通して学んだこと、感じたこと

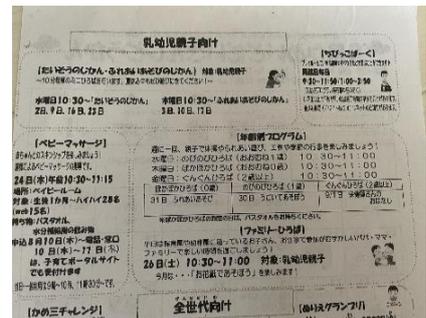
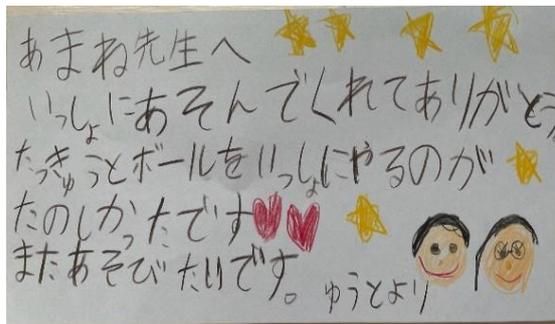
人間科学部社会福祉学科 2333052 清水アマネ

## 施設実修を終えて感想・反省

この自習を通して一番得られるものは人との関わりだと感じた。主な自習内容は利用者対応が多く、幅広い年代の方と交流することができた。普段かかわることのない小中学生や高校生、保護者の方などさまざまな方が利用する児童館ならではの経験であった。児童館は私たち実修生や職員とのかかわりだけでなく利用者同士の交流も盛んであり、ほかの学校に通っている小学生と一緒に遊んで関係を作っていたり、同年代の子供を持つ保護者同士の交流の場にもなっていたり、人と人をつなぐ架け橋のような役割が児童館にはあるのだということ学んだ。また、近隣の公園を紹介したり病院を実際に利用した方のリアルな評価を掲示したりと情報を得ることもでき、その地域に暮らす家族全体へもいい影響を与えることができる施設であると考えた。

また児童館が開催している乳幼児向けプログラムも地域にとっての役割であると考えた。実修中にも乳幼児プログラムがあったため参加したり補助として関わらせていただいたりした。そこではベビーマッサージイベントや年齢別にその年齢にあった体を動かすイベントを行った。とくに私が印象に残ったイベントはベビーマッサージイベントであり、外部から講師の先生をお呼びして参加者を集い行うイベントである。人形を用いて実践しながら乳幼児に合わせたマッサージを指導していた。参加者には具体的なイラストなどを用いたプリントをくばり家に帰っても思い出せるような工夫がされていた。そういったイベントが児童館で行われていることを初めて知ったのでとても驚いたのと、気軽に足を運べる児童館でのイベントなので参加しやすくいい機会であると感じた。マッサージが終わった後に講師の先生への質疑応答の時間もあり、保護者の疑問や不安にも配慮したイベントであった。

私自身この実修を通して多くのことを学び成長することができたと感じた。それは小中学生などの子供と関わり、個性豊かでさまざまな価値観に触れることによって視野を広げることができたからだ。子どもに楽しいと思ってもらえるようにするにはどうしたらよいか、子ども同士のつながりを作るにはどうしたらいいのかなどを考えながら、身近な存在に感じてもらえるように同じ目線に立って一緒に楽しい期間を過ごすことができたのでとても良い実修期間となった。



↑  
← 利用者の子供からもらった手紙

↑ 児童館のイベントについて

## 先輩へのアドバイス

児童館の職員の方も利用者さんも皆さんとてもいい方で実修生を快く受け入れてくれます！最初は緊張するかもしれないけど、積極的に声をかけて行動すればいろんな経験ができます。実修期間の間に何度も利用してくれる子供や保護者の方に覚えていただけたら、最後の日には上の写真のような手紙を書いてくれたりする子もいます。同じ利用者の方ばかり対応するのがすすめているのではありませんが、よく利用してくれる子ども保護者の方には挨拶だけでもするといいいと思います。また子どもと一緒に遊ぶだけで身構え過ぎず楽しんでください！

## 亀戸第三児童館でのFS実修を終えて 教育学部幼児教育学科 2338077 金子光咲

### 施設実修を終えての感想・反省

今回のFSで実修させていただいた亀戸第三児童館は、ぬりえが盛んで、館内の装飾も多い児童館でした。

FS実修で私が感じたことは、児童館という施設は、架け橋のような存在であるということだ。これは自分が利用者として児童館に通っているときにはわからなかったことである。同学年の子とだけ、いつも一緒に遊んでいるメンバーとだけではなく、ほかの子たちとも仲良くなれるように手助けしてあげることも児童館で働く職員の役割だと教えていただいた。また、保育園等以外での親御さん同士の交流の場になっており、特に初めての子育てをする方にとっては安心を得られる場となっている。加えて児童館にはポスターやブックレットがあり、様々な施設についての情報を得たりすることができ、行くきっかけにもなっているということを理解することが出来た。



また、地域に住む人にとって居場所となっていることも知った。普段学校に行っている子どもや、乳児さんの居場所になっているだけではなく、学校に行くことが難しくなった人も人とかかわれる居場所となっているというお話を聞くことができ、児童館は本当に地域の人たちにとってなくてはならない施設であることを改めて感じる事が出来た。

また、地域に住む人にとって居場所となっていることも知った。普段学校に行っている子どもや、乳児さんの居場所になっているだけではなく、学校に行くことが難しくなった人も人とかかわれる居場所となっているというお話を聞くことができ、児童館は本当に地域の人たちにとってなくてはならない施設であることを改めて感じる事が出来た。

反省としては、一人で来ている子に話しかけるというのがあまりうまくいかなかったというところである。ある程度児童館に慣れてくると、子どもたちのほうが私たちのことを覚えてくれていて、こちらから話しかけずとも遊びに参加させてくれたりしてくれていた。もっと自ら率先して話すべきだったと感じている。これからの実修等では、この反省を生かしていきたいと考えている。



### 後輩へのアドバイス

実修の内容としては、子どもと一緒に遊ぶ子ども対応や、館内の清掃、お祭りの準備、ベビーマッサージなどの行事のお手伝いをした。どれも普段の生活ではなかなかできないことだと思うのでとても新鮮だった。気を付けたこととしては、わからないことがあったらすぐに職員の方に聞くこと、いつでも子供たちを見守れるように座ること、子どもたちと遊ぶときは全力で楽しむことだ。職員の方々優しいので、困っているときは必ず助けてくれる。子どもたちを不安にさせないためにもわからないことはそのままにしないことが大切である。また、多くの子供たちが来るので、なるべく角に座り、いろいろな子を見られるようにする必要がある。加えて、子どもたちは全力で遊ぶため、私たちが楽しむことで子供にそれが伝わり、子どもたちも楽しそうに遊んでいた。後輩の皆さんもぜひ楽しんでこのFSに取り組んでほしい。

## 施設実修を終えての感想・反省

私は今回のフィールドスタディーズを通して様々なことを学ぶことが出来たと感じる。児童館は乳幼児がいる保護者のお話を聞いたりする等、子供たちだけでなく保護者の方にとっても大切な場所であることが分かった。子供たちと遊んだりイベントの準備・参加などを体験したりなどを通して、子供たちの色々な面を見ることが出来た。ドッジボールをしていた時、高学年の子が低学年の子には優しく投げてあげたり、周りをよく見てボールを回していたのが印象的だった。低学年の子供たちとぬりえや折り紙などをして遊んでいた時も、他の子とペンを譲り合っていたり、折り紙の折り方を教えてあげたりと思いやりのある行動がよく見られた。

児童館で行われているイベントでは「えほんの森」や「らくがきタイム」、「親子 de なつまつり」などを行った。「えほんの森」では子供たち自身が選んだ絵本を乳幼児に読み聞かせして感情の入れ方や読む速さなど考えて読んでいることが伝わってきた。また、「らくがきタイム」では一本の線や点から想像力を膨らませて描いていたことに驚いた。発想力が豊かで手や足なども使って自由に絵を描いているのがとても印象的だった。「親子 de なつまつり」ではきっずクラブの子供たちがみんなで屋台を作り、当日も店番をしていた。店番ではお客さんに元気な挨拶と丁寧な対応をしており、遊んでいる時とは違った姿が見られた。これらのイベントは子供たちの思い出作りに加え、乳幼児がいる保護者の方にとっては保護者同士の交流の場にもなっている事が分かった。

8日間、実修をさせて頂き、最初は子供たちと関わっている時、ダメなことを注意する時の伝え方が難しく、なかなか注意することが出来なかったが、職員の方が相談に乗ってくださり、注意の仕方を学ぶことが出来た。また、東雲は高層ビルの印象が強かったのですが、実は団地も多くあり経済格差が大きいようだ。そのため子供の中には経済格差という問題を抱えている子もいるという事が分かった。加えて高層ビルに住んでいる子供たちも問題を抱えており、一見裕福に見えるが家庭内の問題を抱えている子もいるため、裕福であっても家庭環境が良いというわけではなく、子供達は何かしら生きづらさを抱えているのだと教えて頂いた。これらのことから今回の児童館実修を通して学んだことを将来に活かしていきたい。



## 後輩へのアドバイス

初日は緊張して思うようにいかなかったり、分からないことを聞いたりすることをためらってしまいがちですが、挨拶と感謝の言葉だけは忘れないようにすることが大切です。そして、分からないことはなるべく早く解決できるように、万が一、初日に質問できなくてもメモを取っておいて次の時には聞けるようにしておくといいと思います。気になったことや分からない事はどんなことでも聞いて勝手な行動はやめましょう。子供達は私達の発言や行動をよく観察しているため丁寧な言葉遣いと笑顔で接する事を心掛けましょう。また、自分から色んな子に関わるように意識することが大切です。自分から積極的に色んな子に話しかけに行くことで新しい発見や性格の違いなどがみられてより充実した実修になると思います。体調管理に気を付けて無理せず充実した実修にしてください。

## 東雲児童館と 8 日間

アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科 2340056 八巻文香

### 施設実修を終えての感想・反省

8日間という少ない期間でしたが、私は東雲児童館で新しい気付きや発見をたくさんしました。大学生である私たちにとって幼児や小学生など小さい子どもたちとかかわる機会がないため、ここでしか体験することのできない経験をしたと思います。東雲児童館では、学童と児童館という2つの役割がある施設で、学童では小学1年生から3年生、児童館では0歳から高校生までと子供の中でも幅広い年齢層で利用することができるのですごくいい環境だなと思いました。東雲児童館にいる児童たちは人見知りをすることなく児童の方から遊びに誘ってくれたり、話しかけてくれたりしてくれる子がいて、初めの方はびっくりしました。児童館では、学年の違う児童がたくさんいて、小さい子どもたちに合わせて言葉を選んで呼びかける必要があります。また、育った環境が違うので、当たり前だと思って言った言葉が通じないなど言葉の選び方が大事ということを学びました。

児童館自体でのイベントが毎月行われていて、イベントに向けてのお手伝いをいろいろしました。8月のイベントである落書きタイム、夏祭りの準備のお手伝いをしました。落書きタイムで思ったことは、児童たちが意外とすぐに何かを書き始めるので、子供の発想はすごいなと思いました。汚れるのが嫌な子がいたのに、友達が足や手に絵の具をつけて遊んでいるのを見て真似して自分もつけてさらに楽しそうにしているのを見て、新しいことに踏み出すまでの勇気によって、どれだけ楽しい遊びにできるかを自分で導くということをお子供たちから学びました。



学童の方に4日間入りました。学童では折り紙をたくさんしました。折った折り紙をプレゼントしてくれてすごくうれしかったです。さらに名前を読んで笑顔で近づいてきてくれるのでやりがいがある仕事だなと思いました。

少なくとも私はこの8日間で小さい子どもたちとのかかわり方が児童館に来た時よりもうまくなったなと思います。私は子供が好きというのもあって8日間児童館に通い、子供たちとたくさん遊んだりできてすごくいい経験でした。



### 後輩へのアドバイス

- ・何人からも話しかけられることがあるけど、一気に聞こうとしないでゆっくりと焦らない
- ・一人ひとり育った環境が違うからそれぞれに合った話し方を見つけて話す
- ・周りを見ながら子供たちと遊ぶ
- ・笑顔でいること
- ・ダメなことはしっかりと注意する。
- ・分からないことがあったら職員に聞く。

## 大島児童館で実修をさせていただいて 教育学部教育学科 2337059 中嶋 彩葉

### 施設実修を終えての感想・反省

私は、今回の大島児童館での実修前に「子どもたちが私と遊びたいと思ってくれるのか」という不安が一番大きかったです。ですが、その不安は実修一日目に払拭されました。子どもたちのほうから新しい先生遊ぼうと言ってきて私の緊張がとて減りました。はじめは、自分から子どもたちに話しかける方法が分からず、とても苦手でした。先生方から話しかけ方や、話している雰囲気を見て学ぶことで、最終日に近づくにつれて自分からいろんな子と話しかけることができるようになりました。子どもたちは、一人一人に個性があり、性格も全く違いました。自分から遊ぼうと言ってくれる子や遊ぼうと言えない子、一人で集中して本や塗り絵に取り組んでいる子など様々でした。はじめは、一人で集中している子にはあまり話しかけないほうが良いのかなと思っていました。ですが、児童館の先生が話しかけた時に楽しそうに話している姿を見て、話しかけないほうが良いというのは間違っていたと気づきました。どんな子とも話すことでその子のことが分かってくると思いました。私は小学校教員を目指しているので、自分の将来にも必ず役に立つ学びになったと思います。

私が大島児童館で特に良いと思った制度は、おもちゃの細かいパーツを受付に借りに来るという制度です。この制度は、小さい子どもがおもちゃを口に入れてしまうのを防ぐための制度だと児童館の先生に教えていただきました。この制度は、その他にも多くの効果があると思いました。私が思いついたのは特に二つです。一つ目は、人と話すことが苦手な子どもでも、自動的に児童館の先生方と話す機会ができるということです。自分から話すことが苦手でも、おもちゃを借りるというきっかけがあることで、話しかけるのが苦手な子どもたちも話しかけやすくなると考えました。二つ目は、おもちゃを借りて、自分で片付け、返しに行くという行動から責任感が得られると思いました。児童館の先生方は、子どもたちの顔と名前を覚えていて、子どもたちがおもちゃを返さずに次のおもちゃを借りに来ると、返してからだよとおっしゃいます。それは、先生方が子どもたちをよく見て、誰と一緒に遊んでいるのかも覚えていないとできないことです。ですが、そのおかげで子どもたちはきちんとおもちゃを返す習慣がつくと思いました。

児童館の実修中に一番大変だと感じたのは、日本語や英語以外の外国語を話す子どもや、保護者とのコミュニケーションです。児童館には想像以上に多くの外国語を話す利用者がいました。中国語を話す大人の方が、中国語で表記されている携帯で設定を開き、私に携帯を渡しました。そして、その方は日本語で記されている Wi-Fi のお便りを指さして会釈していました。日本語でのみ説明されている Wi-Fi のお便りは、日本語が分からない方にとっては読めないという当たり前のことに気づき、私ははっとしました。ですが、お便り全てに英語や中国語を表記してはきりがありません。児童館はクラスなどもなく、誰でも立ち寄ることのできる場所になっているため、出てくる問題なのかなと思いました。中国語しか話せない兄弟がよく児童館に来ていました。はじめは、話しかけられないなと思っていましたが、身振りとともに話しかけている児童館の先生方を見て、私も真似しました。そうすると、子どもたちは私の伝えたことを感じてくれて、笑顔を返してくれました。その時に、伝えようとするのが何より大切なのではないかと思えました。

大島児童館での実修を通して、とても多くのことを学ぶことができました。FSで大島児童館に行けなかったら学べなかったことは本当に多かったと思います。また、将来のために必ず役立つ経験になりました。大島児童館での多くの方との出会いに感謝したいと思います。



### 後輩へのアドバイス

児童館にお邪魔し、子どもたちと接するときは、緊張しすぎないようにすることで、子どもたちが話しかけやすい雰囲気になると思いました。私たち実修生が緊張していると、子どもたちにその緊張が移ったり、どうしても私たちの表情が硬くなったりすると思います。また、大島児童館で学べることは、子どもたちとの関わり方だけではなく、子どもたちとの関わり方はもちろん、保護者の方との関わり方や、子どもたちが来る前の準備の大切さなども学ぶことができます。実修の際には、毎日小さい目標でもいいので立てて、達成していくことで、今の自分に何が足りていないかを考えながら実修時間を過ごすことができると思いました。一日の過ごし方や、観察の仕方などで、この実修で得られることは何倍にも増えると感じました。

# 大島児童館での実修を通して学んだこと 看護学部看護学科 2363092 山田 楓

## 施設実修を終えての感想・反省

今回の10日間の実修を通して、普段の生活や学校の授業では知ることの出来ないことを沢山経験し、学ぶことができました。このような場で働いたことがなく、小さい頃に児童館に遊びに行くという経験もなかったため、初めは児童への接し方が上手く掴めず、実修一日目では私自身が緊張してしまい児童にも緊張が伝わってしまっていると感じることがありましたが、子どもたちが児童館に来たときに明るく挨拶をしたり、表情や声のトーンを意識しながら話しかけてみたりすることでお互いに少しずつ緊張が解け、さらにゲームなどをしながら距離を縮めることができました。まだコミュニケーションをとることが難しい幼児さんと一度遊んだときに、自分の言葉をどのくらい理解してくれているのかが分からず不安になることがありましたが、自分の表情や声掛けが伝わったのかすごく懐いてくれて、次に会ったときに嬉しそうに走ってきてくれたのがとても嬉しく、やりがいに感じました。

わたしは、保護者の方がいる幼児の子にどのタイミングでどのように話しかければよいのかというのが実修中の一番の課題でした。子どもにとっては親御さんが一番安心できる存在だと思うので、その間にどのようにして入っていけば良いのかが分からなかったのですが、職員の方に、「〇〇できたね」「すごいね」「びっくりしたね」などできたことを褒めたり、感情を言葉にしてあげたりすることで、言語の発達や成長にも繋げることができるとアドバイスをいただき、児童館は子どもが楽しく遊ぶだけでなく、様々なことを学ぶことのできる場なのだと思い直しました。

そして、実際に大島児童館で職員として働かせていただいて、全児童が安全に楽しく遊ぶことができる工夫が多くあることに気が付きました。大島児童館では、対象年齢別に多くのイベントや企画があり、男女年齢関係なく楽しめようになっていました。夏休み期間は小学生以上を対象にしたイベントが多くあり、夏休みが終わり学校が始まった頃に乳幼児向けのイベントが増えるというふうに日程が調節されていて、自分では考えられなかった視点での工夫を知ることができてとても勉強になりました。



また、左の写真のように、おもちゃの小さなパーツや付属品に一つ一つに番号が振ってあり職員側でこれらを管理することによって、乳幼児が誤って口に入れてしまったり、パーツがなくなってまうということがなくなるよう工夫されていたり、年齢によって遊ぶことのできる部屋や時間が分けられてあったりして、子どもたちの安全が守られていると感じました。これらの工夫が、親御さんが安心して子どもたちを児童館に送りだせて、子どもたちがまた明日も遊びに行きたいと思えるような場所になっているのだと思いました。

私は将来小児科の看護師として働きたいと考えています。看護師は医療の知識を必要とするだけでなく、子どもたちに安心感を与えるような親しみやすさなどもとても重要だと思うので、この実修で学んだことを最大限活かしていけたらと思います。このような機会をつくってくださり本当にありがとうございました。

### 後輩へのアドバイス

c子どもたちも初めは緊張していたり人見知りしている子もいたので、自分から名前や学年を聞いてお互いに軽く自己紹介をするなどして距離を縮めるようにしていました。主な活動は児童と遊ぶことですが、何かできることがないか職員の方に聞いて、イベントで使用するものや景品の作成等も積極的にするようにしていました。常に子どもたちの目線に立って、どん

## 南砂児童館での三日間

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科 2315084 山田陽菜乃  
施設実修を終えての感想

三日間実修させていただいた、南砂児童館は周りが団地に囲まれていて、団地に住む子どもたちや親子が多く来ている活気あふれた児童館だと感じました。

実修の朝は、掃除から始まりました。子どもは、おもちゃを口に入れる、ベンチの下にもぐるなど大人ではしないような行動をします。児童館は、おもちゃの消毒や床の水拭きなど細かいところまで清掃を行っていました。職員の方の細かな気遣いによって安心安全に過ごせる環境になっているのだと思いました。

午前中は、曜日ごとに0歳から2歳くらいの子供とお母さんたちの「ねんねこりすさんひろば」などが開かれていました。子どもたちが楽しんでできる体操や遊びが行われています。頭を使って遊べるような寒天遊びなど、子どもたちの成長を促すように考えられているのだと感じました。また、お母さん同士が仲良くなるきっかけにもなっており、子育ての悩みや保育園のことをお母さんたちで交流できる場になっていました。子育ては、とても大変だと思うので、周りに相談することができる環境があることはとても重要だと児童館の存在の大きさを実感しました。児童館の方は常に笑顔で子供たちに接していて温かい雰囲気的空間ができていました。

午後は、保育園や小学校帰りの子供たちが、たくさん児童館に遊びに来ていました。私も子どもたちに混ざってゲームや、縄跳び、人形遊びをして遊びました。さまざまな個性やバックグラウンドをもつ子どもたちがいましたが、みんな仲良く遊んでいて、多文化共生があたりまえのように成り立っていました。職員の方が子どもたち一人一人の名前とどんな子かをしつかりと覚えていて、子どもたちへのケアや配慮が自然とされていました。

また、クラブという学童保育、打ち水、避難訓練にも参加しました。打ち水は、日本の昔からの伝統を子どもたちに体験させるという活動でした。みんな楽しそうに体験していました。9月1日は関東大震災が起こった防災の日でした。避難訓練が行われました。子どもたちも真剣に非難していて、自分自身の防災意識を高めることもできました。

南砂児童館は、南砂の子どもたちにとってとても過ごしやすい大切な居場所になっていると思いました。私が三日間でうれしかったことは、学科の学びが実修で生きたことです。日本語があまり話すことのできない子と中国語でコミュニケーションをとることができ、うれしく感じました。今後の学びへのモチベーションにもなりました。最終日には、多くの子供たちが寂しいと別れを惜しんでくれて、子どもたちにとって少しは楽しい時間になっていたらいいなと思いました。



### 後輩へのアドバイス

南砂児童館での実修は職員の方の仕事内容や子どもたちへの接し方など多くのことを学ぶことができました。たくさんの子供たちと遊ぶことができ、最高に楽しい3日間になりました。子どもたちと接することで、小さなころに思っていたことを思い出して原点に戻ったような、大切なものを思い出したような気がしました。子どもたちはいつでも全力なので、体力は使いますが、子どもが好きな人にとってはかわいい子どもたちに癒される素敵な期間を過ごすことができると思います。私は、グローバル学部なので、直接学部での学びに関係はありませんが、学部で学んだ中国語や英語を生かすことができ、とてもいい経験になりました。また、教育や社会福祉に興味があったので、本を読むことより実際に自分の身をもって体験できたことが大きな学びになりました。

## 施設実修を終えての感想・反省

私は児童館というものを利用した経験がなく、あまり馴染みのないものであったため児童館でのフィールド・スタディーズが決まった時は「どんなところかな？」という不安な気持ちがありました。記憶を遡ってみても、小学校の近くにあつて、小学生が放課後に遊ぶところというイメージしかありませんでした。しかし、私が思い描いていた以上に児童館という存在が大切なものだと実修を通して気付くことができました。

まず初めに驚いたのは色々な年齢の子どもが児童館を利用しているということです。小学生だけが利用するものだと私は思い込んでいましたが、0歳から高校生までの子どもたちが児童館を利用していました。主に、午前中は乳幼児とその保護者の方が利用し、午後になると学校が終わった小学生や中学生、高校生が利用していました。卓球や縄跳びなどの運動をする子もいれば、人生ゲームや人狼などのゲームをする子もいるし、漫画やピアノなどで一人を楽しむ子もいれば、宿題やお話をして友達と楽しむ子もいました。小学生から高校生までの子供たちが同じ空間を共有しあつて楽しんでいる光景は、とても新鮮なものでした。

次に驚いたのは児童館が子どもたちの交流の場にとどまることなく、子育てをする保護者の方たちの交流の場にもなっているということです。前述の通り午前中は乳幼児とその保護者の方が児童館を利用しています。親子で楽しめる体操や活動の他に、お誕生日会や身体測定も児童館では行っており、それらのプログラムを通して保護者の方と先生方の間で、子どもが最近できるようになったことや育児での悩みなどを共有していました。子育てを一人で抱え込んでしまい、保護者が孤立してしまいがちな日本の現状において、寄り添い助けあつていくためにも児童館があるのだなと感じました。

子どもを育てるのは保護者だけではないのだなと感じた場面がもう一つありました。それは初日の実修を終えて外に出た時、児童館の周辺に住む子どもたちが外で集まって野球や鬼ごっこをして遊んでいる姿を目にした時です。それは私の地元ではなかなか目にする事ができない光景でした。直接、顔を合わせなくてもコミュニケーションが取れるようになった今の時代でもこうして昔ながらの遊びをのびのびと遊べる空間があるというのはとても良いことだと思いました。児童館を中心とした南砂の地域全体で子どもを育てている、そんなふうを感じました。

子どもたちを成長させてくれる環境の中心にある児童館、その児童館の中心にいたのが先生方でした。子どもを成長させる良い環境を作っていくためには、子どもと子ども、または子どもと先生との関係ももちろん大切ですが先生同士の関係がとても重要だということを学びました。子どもたちと同じ目線を持ち、真正面から向き合う先生方の姿はかっこよく、先生方が作り出した暖かい雰囲気が子どもたちに、保護者の方に、地域に、そして私へも伝わり実修を通して南砂児童館が大好きになりました。

思い返してみれば6月17日、見学のため児童館に伺ったときから既に先生方の暖かい雰囲気が私に伝播していて、不安な気持ちではなく「どんなところかな!!!」というワクワクした気持ちで実修を迎えることができました。とても楽しい三日間の実修をさせていただきありがとうございました。



## 後輩へのアドバイス

児童館での実修は保育園や幼稚園、小学校などへの実修とは違った学びが得られると思います。わからないことや不安なことが出てきたら、悩んでしまうのではなく先生方に相談してみましょう、きっと優しくアドバイスをしてくれると思います。時には子どもたちや保護者の方が、ふと口にした言葉が助けになるかもしれません。与えられた機会を無駄にしないように全力で楽しみ、広い視野で児童館の隅から隅まで学んでみてください。

## 施設実修を終えての感想・反省

今回の実修は14日間というこのプログラムの中で1番長い実修期間だった。そのなかでとても多くのことを経験させていただいた。私は児童館を利用したことがなく、児童館という施設について理解していなかった。正直なところ児童館職員は子供たちと遊ぶ職業だと思っていた。しかし、実際の現状は想像していたものとはかけ離れたものであった。まず、児童館にはイベントがあり、職員の方々が時期や子供たちが参加してくれどのような内容だと喜んでくれるのかなど多くのことを考えていらっしまった。さらにそのための材料の購入の壁や外部指導の方との繋がり大切さなども学ぶことができた。普段の職務は事務的作業とメインである子供たちの触れ合いがある。一見皆さんただ子供たちとゲームや話をしているようにしか見えないかもしれない。しかし、少ない職員で多くの子供たちにふれあい、観察するためにポジショニングを意識する、子供たちが話をするために自分たちはきっかけを与えるに過ぎないことなど多くの子に気を使っている。子供たちの性格は十人十色であり、おかれている環境なども様々である。その一人一人の特徴をつかみ、その子供たちは気づかないが最適な接し方で接している。

子どもたちは様々な価値観や境遇を持っており、それらに対応していくことは大変であると思う。施設に必要なものがあっても重要度や安全性面、予算問題もありほしいものをすべて経費計上で購入できるわけでもない。その中で職員の方々は、子供たちに最適な環境を提供している。また区の施設であるため、一般企業とは違い利益追求が目的ではない。子供たちの拠り所となり、心の支えとなる軸の一つになっている環境であると思う。区の意向で児童館などが減ってきている現状があり、子供たちが関わりあう機械や場所が少なくなっている。

今回の実修を経て様々な価値観や経験を獲得できた。また、子供たちに最終日手紙をもらえるほど仲良くなることもできた。子供たちとの触れ合いの中で話した内容が子供たちの支えや役に立てば本望である。今回経験させていただいたことを自分の中に落とし込み、今後の自分が目標とする道へとつなげていきたいと思う



左から掲示用に作成した絵、イベントで子供たちが作成したレジンキーホルダー、子供たちと作ったパズル300ピース

## 後輩へのアドバイス

## ・活動内容

1. 施設清掃・・・子供たちが利用する部屋の清掃 おもちゃの消毒作業
2. 子供たちとの触れ合い・・・話し相手 相談相手 遊び相手
3. イベントごとの準備、後片付け、サポート
4. 年齢別プログラムでの手遊びや読み聞かせなどの活動体験
5. 掲示物の作成

児童館のフィールドスタディーズは保育士や教師を目指す人にとってはとても貴重な経験になると思います。自分は経済学専攻であるが、経営者を目標にしているため貴重な価値観の獲得や経験を得ることができた。はじめは子供たちとの接し方や業務内容に戸惑いを覚えることもあるかもしれない。しかし、日を追うごとに職員の方の努力や子供たちとの信頼関係も築いていけるため、真摯に愚直に目の前のことに向き合うことが大切であると思う。

## 東砂第二児童館での実修にて学んだこと

教育学部教育学科 2337131 渡邊祥太郎

### 施設実修を終えての感想・反省

私は子どもと関わる機会を少しでも増やしておきたいという目標を持ってこのフィールドスタディーズに参加しました。現在私は小学校・中学校の教員を目指しているのですが、教育に関する学問の学習はできて、実際の教育現場を体験する機会は大学4年間を通してそこまで多くありません。そのため大学在学中に少しでも教育現場での実務経験を積んでおきたいと考え、児童館での実修に取り組みました。主な実修内容は子どもとの遊びや会話、乳幼児や保護者とのふれ合い、館内掲示物の作成、館内清掃や備品の移動などでした。

私は児童館でのフィールドスタディーズ実修を通して、子どもと向き合うことの大変さを学ぶことができました。児童館では1つの部屋にたくさんの子どものいるために、全ての子ども様子をうかがっておかなければいけません。子どもの協調性を乱すような誤った行動や危険な行動に対してどのように注意すべきかなど、子どもと向き合う場面では大変な要素が多く存在していることがわかりました。実修中では子どもとカレーを作るというイベントがあったのですが、包丁を使っているそばで子どもがふざけ合っており、怪我をしかねない危険な状態が続いていましたが、そのとき私は適切に注意することができませんでした。その他にも、子どもとの対応に集中しすぎるあまりに別の子どもが喧嘩をしていることに気づくことができないなど、反省点は多々ありました。こうしたトラブルを未然に防いで、万が一のトラブルにいち早く対処するためにも、子どもと向き合う際には視野を広くすることと、時と場面に応じて適切に注意するという点を念頭に置いておかなければならないのだと感じました。

さらに実修全体を通して、児童館の利用者に対する気配りの姿勢の手厚さにも気づくことができました。児童館の職員の方々が子どもの性格や家庭事情などを正確に把握していたり、子どもが館内で怪我をしないように備品の配置などに配慮したり、様々な工夫を発見したりすることができました。その他にも、児童館では子どもや保護者との会話などの記録を逐一とっているのだということを知ることができました。児童館での業務は単に子どもや保護者と交流をするだけでなく、利用者のために裏で地道な業務をたくさん行うことも含まれているのだと感じました。

今回の実修では子どもと関わる体験を多く積むことができました。本来大学の教育実修などで子どもと直接関わる機会を得られるのは数年先の話になりますが、大学1年次の早い段階でこのような貴重な機会を得ることができてよかったですと感じています。この実修で得られた発見を無駄にしないよう、今後の大学での教育実修や将来の教育現場に積極的に活用していきたいと思えます。



↑ イベントで調理したカレー(左)



↑ 実修中に作成した掲示物(右)

### 後輩へのアドバイス

一度に多くの子どもと関わる貴重な経験になるので、教育関係の職業を志望している人にはぴったりな実修です。大学での教育実修に参加できるのは大分先になるので、1年のうちに子どもと関わる経験を積んでおくのは良いことだと思います。

私が実修に参加したときは夏休みだったこともあって1つの部屋に数十人の子どもが集まっていたので、全体的な子どもの様子が見渡せるように立ち位置に気をつけることが重要でした。また、特定の子どもと長い間遊ぶのではなく、他の子どもと一緒に巻き込んでなるべく多くの子どもと積極的に遊ぶように心がけることが大事なことだと感じました。

## 施設実修を終えての感想・反省

ティアラ江東での実習前ではどのようなことをしているのかがわからなかったのですが事前学習などで調べることである程度どのような施設でどのようなことをしているかを頭に入れていたのですが予想以上にしんどかったがとても刺激になり、今までないような体験でした。

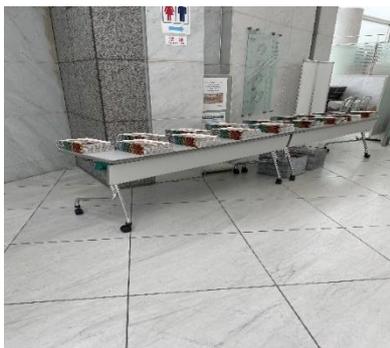
中でも特に大変だったのはチラシの折り込みでした。チラシの折り込みでは4日間トータルで1000枚ほどチラシの挟み込みをし、かなり大変でしたが普段私たちが手に取っていたりしているまとまったチラシがこんなにも大変な作業という工程を通して考えると、普段のチラシに対しての意識が変わってしまうなど感じました。

2日目は一寸法師の演劇があり、その劇では高齢者の方やお子さんだけでなく、耳が不自由な方にも楽しめるように手話を使った劇の手伝いをしました。そこでは1人1人お客さんの目を見て両手で渡すことを意識し、与えられた仕事をただ単にこなすのではなく、自分で工夫して与えられた仕事以上をする意識で取り組むことができたと感じています。そして目標であった挨拶をしっかりとするというのは常に自分の中で意識して活動に取り組みました。

ティアラ江東では、高齢者の方から子供まで幅広い年齢層の方が利用している印象があり、自分自身で考える事業企画書では、若者がこのような文化センターやホールの利用率を上げるためにどのようなイベントを開催すべきかという問題について考えました。自分のような大学生や高校生などが自主的に参加してくれるようなイベントをする機会の媒体の中でSNSが一番大きな役割を果たしていると考えSNSを有効活用した広告宣伝のイベントを企画しました。事業企画の発表では施設の方から企画書の細かな運営費などの項目について教えていただき、1つのイベントを開催するのにたくさんの費用が掛かっているということにとっても勉強になりました。

最終日にはアウトリーチコンサートというヴァイオリニストとギタリストの方が地域の小学校に訪問をし、演奏をするという事業の手伝いをしました。そこでは演奏するだけでなく、小学生からの質問コーナーやヴァイオリンとギターの本物の紹介などもありました。手伝いではセットリストの文字を書く仕事では小学生が見やすいように綺麗に文字をかけたと思います。また、ゲストの方と受け入れ先の方との対応やビジネスマナーなどを学ぶことができました。

4日間でさまざまなことを学べたと思います。一般のお客さんが多く来客しており、接客の仕方やビジネスマナーなどの基本的なところから施設のシステムや運営の仕方、歴史などの細かなところまで、フィールドスタディーの実習を通して学ぶことができ、とてもよかったと思います。



## 後輩へのアドバイス

一般のお客さんなどがたくさん来るので武蔵野大学の生徒の代表としてインターンをしに行くという気持ちで取り組みましょう。

仕事内容はチラシの折り込みなどがあり思っている以上に体力を使います。イベントではホールで鑑賞させていただけますがあくまでも仕事の一環ですので迷惑になるようなことは避けましょう。挨拶は基本中の基本ですので必ずしましょう

## ティアラこうとうでの実修で得られたこと

経営学部会計ガバナンス学科 2321085 会田ひかる

### 施設実修を終えての感想・反省

私は今回のフィールドスタディーズにおいて、公益財団の仕事内容について詳しく知ること、地域の方と失礼のないようコミュニケーションを取ること、そして新しいことをたくさん経験することという3つの目標のもと参加させていただきました。

まずは実修1日目に事務所長の方から公益財団法人の役割についての説明を受け、江東区の地域文化施設はすべて江東区文化コミュニティ財団が施設運営をしていることを知りました。区ではなく財団法人が運営することにより、土日祝日でも利用できたり、夜遅くまで開館したりすることができるなど、区民の方々により訪れやすいよう工夫することができるそうです。毎年400,000人の方が利用するらしく、愛され、かつ需要のある施設だなと感じました。

また、実修2日目からは公演運営のお手伝いをさせていただき、そしてその公演を通して多くの区民の方と触れ合うことができました。2日目の人形劇一寸法師公演は、ろう者と聴者がともに手話を使いながら人形劇を行うという内容でした。公演の終わりには交流会があり、実際に日常で使える手話をろう者の方から教えてもらう時間がありました。4日目はアウトリーチ事業の一環である、小学校でのバイオリンとギターコンサートの運営に携わらせていただきました。そこでは、小学生に質問コーナーを設けて、曲や楽器の説明も行いました。また、ティアラこうとうでは毎年オーケストラの方が子供に楽器を教えるというジュニアオーケストラという講座を開催しているようで、このように多くの芸術的な公演を通じて区民の方の交流の場になっているのだなと改めて感じることができました。

そして私の3つ目の目標であった新しいことをたくさん経験することもできました。チケットシステムの体験やチラシの挟み込みなど、すべてが人生初めての経験でした。その中でも私が印象に残っているのは、企画書を考えたことです。自分で企画案を出すというのは新しい試みでした。実現性の高い企画にするために予算を計算したり、出演者の決定を行いました。実際に企画の説明を行い、ターゲットオーディエンスに対する入場料が見合っていないとのアドバイスをもらいました。また、2日目の公演でアナウンスの体験もさせていただきました。来場者の方に聞き取りやすいアナウンスをご指導していただき、無事成功することができました。

このように、ティアラこうとうでの4日間の実修を通してたくさんのご経験を、多く学びを得ることができました。



### 後輩へのアドバイス

このプログラムでの主な実修内容は、ティアラこうとうで行われる公演運営のお手伝いです。普段このような事業に携わることはめったにないと思うので、新鮮でとても勉強になります。私はこの実修期間中に3つの公演のお手伝いをさせていただきました。

また、ティアラこうとうは地域文化施設ということもあり、たくさんの区民の方が訪れます。実修中とはいえ、礼儀正しく失礼のないよう心がけることが大切だと思います。

## 亀戸児童館にて学んだこと 経営学部会計ガバナンス学科 2321017 小川虎徹

### 施設実修を終えての感想・反省

私が今回の実修で学んだことは、児童館という社会福祉施設の機能についてです。子供たちがよりよく成長できるための補助を行えることが主な機能だと感じ、その中でも違う年代の人との関りができるという点が子供の成長において良いと考えました。この経験から特に重要だと感じたことが2つあります。

1つ目に、子供たちが様々な世代の人と接することができるということです。まだ生まれたばかりの子供から高校生まで幅広い年代の子供たちが集まっているため自然と関わる機会も増え、自分と近い人間だけではない様々な価値観と若い段階から出会えるということは、自分の人格を確立させるうえで大切であると考えているため、子供たちの成長の場として適切だと学びました。

2つ目に親御さんたちへも援助をすることができるということです。実修をしている中で、子供たちだけではなく親御さんへのサポートもできているという実感を持つことができる体験をすることができました。水遊びという、沢山のビニールプールに浮き具や遊び道具などを浮かせて子供たちが遊ぶというイベントを行った際に、未就学児や生後間もない子供たちと接することができました。そんな中、どうしても親御さんが目を離さなくてはいけない場面で職員や私たち実修生のことを信頼して、預けてくれたことが印象的でした。まだ1人で遊ばせるには心配である中で、任せてくれることの信頼関係や、普段付き切りで面倒を見ている親御さんのリフレッシュの場になっていると認識を持ちました。また亀戸児童館様は、児童館だけでなく学童施設も兼ね備えているため、働いて帰りが遅い親御さんやその他の事情がある子供たちを受け入れて、宿題をするように促したり、遊び相手になってあげたりといった様々な援助を行っています。その学童の業務をしている際に、親御さんが子供を迎えに来た時、感謝の言葉や少し会話をしたときに、ここに預けてよかったといった言葉を言うてくださったことが印象に残りました。また、上記のように直接的でなくても、子供の遊び場を提供することで親に対しても支援を行えることの児童館の役割を実感しました。

以上のことから私は、児童館という施設の社会的な役割について、子供と親の両面から支援を行えていることを今回の実修で学ぶことができました。



### 後輩へのアドバイス

私が実修を通して、後輩の皆さんにアドバイスをしたいことが2つあります。

まず1つ目に、子供たちとは全力遊んだほうが良いということです。亀戸児童館様には体育館のような場所もあり子供たちの需要が高いため、ドッジボールに似た「タスケ」という遊びをする機会が多くあります。その中で、子供だからと力を抜く必要はなく、全力で向き合い子供たちにとっての超えるべき壁となるのが重要だと経験したため、全力で遊び相手になるということを意識したほうが良いと思います。

2つ目に子供の話をよく聞くということです。子供たちと接している中で、喧嘩が起きている場面に遭遇することがあります。その中で、よく問題を起こす子供をすぐに悪いと断定するということはせずに、当人間の話を聞き、お互いにある自分の悪いところを認めさせ、謝るように促すことが重要です。

無邪気な子供たちと接することができる貴重な機会なので、悔いのないように実修を頑張ってください。

施設実修を終えての感想・反省

児童館では子供たちに囲まれ、特殊なレクリエーションの運営を行うなどの経験をすることが出来、それらによってキャンパス内では得られない成長ができた実感しています。児童館では子供たちにとって心地いい居場所となるような工夫が多くなされているように感じました。乳幼児用のスペースと小学生低学年用のキッズルーム、そしてそれ以上の児童が利用できるホールや運動の出来る集合室などを物理的に分けることで年代観でのトラブルを予防していました。ホールでは様々なボードゲームやカードゲームが用意してあり、特に頭を動かすゲームが多かったです。その他にもオンラインゲームをするためのWIFIやピアノまで設置されており、児童の多くはここで時間を過ごしていました。集合室では体を動かすことが出来、ドッチボールや一輪車などを時間帯で分け小中高生たちに大人気でした。



実習を通して一番大変だったことはやはり子供たちとのコミュニケーションの取り方です。子供たちは一人ひとり個性があって考え方も職員に求めている行動も違うのにもかかわらず、私はそれに気づくのが遅れてしまい画一的な「正しい接し方」を模索していたため子供たちになじむのが遅れてしまいました。子供たちには児童館を楽しみに毎日来ている子もいれば、友達と遊ぶ場所として利用している場合やほかに居場所がなく暇つぶしとして利用しているケースもありました。そのため子供たちと接するときはこの子はこういうタイプなのだとジャンル分けしたりするのではなく一人一人とコミュニケーションをとることが大事だと感じました。また亀戸児童館ではリアル脱出ゲームや水遊び、ボディペイントなど様々なレクリエーションが実施されており、その準備や運営片付けなどに子供たちを楽しませようという工夫が満ちていました。毎月更新される装飾も不器用ながらも他の実習生たちと役割分担を行い協力することで進められ、大きな達成感を感じる事が出来ました。12日間という短い間でしたが親切な職員方といっしょに子供たちとの接することや、チームで連携して作業することはとても充実感のある貴重な経験となりました。



後輩へのアドバイス

亀戸児童館では掃除やイベントの準備なども行うが一番多い業務は子供たちと直接接して、遊び相手となり危険な行動をしないかなどを見守りをする事です。そのため一緒にスポーツをするほかにも追いかけっこやおんぶなどを求められることも多いため、体面や腰痛などは覚悟しておいた方がいいと思います。職員方も非常に親切でわからないことがあった際には優しく教えてくれるので、あまり気兼ねしすぎずに積極的に質問をして大丈夫だと思います。またタスクなどの運動では手を抜きすぎたりすると見破られることも多く、最初は抵抗があると思いますが職員が共通の壁となることで児童たちの雰囲気も良くなるため思いっきりやっていると教わりました。

施設実修を終えての感想・反省

私はこの実修を通して児童が自由に集うことができ、おもちゃがたくさんあり、優しい職員の方がいるなどの整った環境を提供している児童館の重要性を実感しました。

児童との関わりを通して、遊びは心身ともに成長を促す機能があると思いました。例えば、人と一緒に遊ぶ事で共感力やコミュニケーション能力、テーブルゲームやタスケを通して工夫する力や判断力、またタスケなどの運動をすることで筋力や運動神経など、様々な能力が養われているように感じました。また亀戸児童館は玩具が充実しており、各々のしたいことができる環境が整っています。さらに、実修の最終日には自動販売機が設置されて、設備の充実に妥協がなく利用者の事をよく考えていてすごいなと感じました。



また、多くの児童にとって亀戸児童館は居心地の良い場所として存在しています。職員の方は児童に対して親しみやすい気さくな対応をされており、児童との間に信頼関係が築かれているように感じました。そういった雰囲気があるため児童から悩み事や困った事を相談されるなど、メンタルケアの面でも活躍されていてとても尊敬しました。さらに、館内には季節に合わせた装飾がされており、視覚からも温かい雰囲気を感じられ、色々なところで安心感のある雰囲気作りの工夫がされていました。

そして亀戸児童館は児童の憩いの場としてだけでなく、保護者が不在の時に安心して子供を預けられる場であること、また保護者の方々がりフレッシュすることの出来る場としての機能も持っていました。実修中に、乳幼児の託児を行い保護者の方に休んで頂くママリフレッシュ、ミュージックケアなどのイベントがあり、ミュージックケアは台風の影響で中止になってしまいましたが、そんな天候の中でもイベントを楽しみに児童館にいらっしゃる方が多くいて、児童だけでなく保護者の方々にとっても重要で居心地の良い施設であることが感じ取れました。



今回の実修で職員さんや多くの児童と関わり、たくさんのことを学びました。また、複雑な家庭環境の子どももいるので相手を傷つけないように、お父さんやお母さんという言い方ではなく、「おうちの人」という言い方をするなど、話し方や言葉の選び方等に配慮することを学ぶことができました。また、子供が主体となるように考えたり、大人として活動を俯瞰をして見ることを心掛けたりする等が大切だと感じました。安心感を与えられる接し方では、笑顔で明るいトーンで挨拶をする。相手の目を見て話す。相手の良さや努力を認めて褒めるなど児童との向き合い方や接し方を知り、児童に対する理解をより深められたように思います。私は将来教師になりたいと考えているため、今回の実修で得た経験を今後の活動に活かしていこうと思います。

後輩へのアドバイス

実修内容は、主に①装飾作り ②児童と遊び、見守る ③館内・児童館周辺の掃除、片付けです。

実修を通して、一緒に遊んでいるという雰囲気を作ることが特に重要だと感じました。見守る立場で遊びに参加していた時に、児童から何度か一緒にやろうなどの声かけを頂いたため、その場にいる人が楽しいという感覚を共有することが一番楽しく遊んでもらうために必要だと思います。

また、教育系や子供に携わる仕事をを目指しているなら、とても良い機会なので徹底的に目標を決めて、授業で習ったことなど思い出すなどして行動するとかなり深く学びを得ることができると思います。

